

笠間焼と樹脂グリップの融合商品開発

【相手先企業】

(有)大光電機工業所

【目 的】

手指や手首、腕などの極度の筋力低下（掴む、握る、上げるなど）により、市販品の陶磁器製飲用食器を使用して食事をする事が出来ないこともあります。また、障害を持つ人の飲食器は樹脂製が主流で、食事が味気なくなるという意見が多い事から、楽しく食事をしてもらうための飲用食器、笠間焼カップと樹脂製グリップを融合させた商品開発を行いました。

【内 容】

グリップを握力の弱い人も指をかけやすい形状にし、笠間焼の陶器と樹脂グリップを接着剤で接合しました。グリップは使う人の個性に合った扱いやすい角度で接合する事が出来るため、樹脂グリップ接合用笠間焼の中から好みのカップを選んで自分専用のカップを楽しむ事が出来ます。

【成 果】

現在、モニターをとおして更なる改良を進め、今年4月発売を目指しています。



写真1 笠間焼と樹脂グリップ融合カップ



写真2 指がかけやすいグリップ

基礎となった事業：オンリーワン技術創出創総合支援事業

笠間焼商品開発研究会

担当部署：窯業指導所 工芸技術部